

# vocaster one studio

## ユーザーガイド

世界に向けて発信  
バージョン1

Focusrite.com



## 目次

概要.....	3	モバイル機器からの音声を録音する.....	20
はじめに.....	3	ビデオカメラに録音する.....	21
ハードウェアの特徴 .....	4	Vocaster Hubソフトウェア .....	22
同梱物.....	5	マイクの調整 .....	23
システム要件.....	5	ミックスの調整.....	24
使用を開始する.....	6	コンピュータからのサウンドを録音する.....	25
イーゼースタートツール .....	6	ループバックの使用例 .....	26
Macの場合.....	7	各チャンネルをソフトウェアで録音する.....	26
Windowsの場合.....	8	各部の名称と特徴.....	27
iPadの場合.....	9	トップパネル.....	27
すべてのユーザー .....	10	リアパネル.....	28
手動による製品登録 .....	10	仕様.....	29
DAWでのオーディオセットアップ .....	10	性能仕様 .....	29
Hindenburgのオーディオセットアップ .....	11	トラブルシューティング .....	32
使用例 .....	12	著作権および法定通知 .....	32
マイクで録音する .....	12	クレジット.....	32
マイクの使い方ガイド.....	13		
オートゲインを使用する.....	15		
手動によるゲイン調整 .....	16		
マイクのミュート.....	17		
エンハンスを使用する .....	17		
ヘッドフォンを使用する.....	18		
スピーカーを使用する.....	19		

## 概要

### はじめに

Vocaster One Studio1によろこそ。Vocaster One インターフェースは、ポッドキャスト配信者や vlogクリエイター、ナレーター、ライバー、オーディオブッククリエイターなど、あらゆるコンテンツ制作者に最適な製品です。マイクやその他のオーディオソースから高品質な音声を収録でき、シンプルでコンパクト、そして完璧なソリューションを提供します。付属のVocaster HubソフトウェアとVocaster Oneを使うことで、コンピュータやカメラにスタジオ品質の音声コンテンツを収録できます。

Vocaster Oneは、初心者から熟練者まで、経験レベルを問わずあらゆるユーザーを対象とした製品です。オートゲインやエンハンスなど様々な機能を備え、クリアで安定したサウンドを素早く録音できます。

Vocaster Hubソフトウェアは、シンプルな使い勝手をコンセプトに開発されました。各種設定に簡単にアクセスでき、番組を自由にミックスし、好みのレコーディングソフトウェアやストリーミングソフトウェアに転送できます。

付属のUSBケーブルでVocaster OneのUSB-Cポートとコンピュータを接続すれば、ストリーミングを生配信することも、録音した番組を後で編集してから公開することもできます。

モバイル機器と接続することで音声による双方向のやり取りも可能になり、インタビューやその他の音声をカメラやコンピュータに送信し記録できます。またカメラの映像と同期させてオーディオトラックを記録することも可能です。配信や収録の状況は、ヘッドフォンやスピーカーでモニターできます。

Vocaster Oneインターフェースと付属のコントロールソフトウェアVocaster Hubは、MacとWindowsのいずれにも対応しています。

USB Cポートを備えるApple iPadにも接続でき、タブレット機器の利点である可搬性と利便性を活用できます。

お探しの情報が本ユーザーガイドで見つからなかった場合は、[support.focusrite.com](https://support.focusrite.com)にアクセスしてください。スタートガイドやセットアップガイド、技術サポートをご利用いただけます。

[Get Startedページ](#)では、Vocaster Oneのセットアップと使い方が学べるビデオシリーズをご覧ください。

## ハードウェアの特徴

Vocaster One Studioのパッケージには、Vocaster Oneオーディオインターフェース、Vocaster DM1ダイナミックマイクロフォン、Vocaster HP60vヘッドフォンが含まれています。またソフトウェアも付属されており、いつでも収録を開始できます。

Vocaster Oneインターフェースを使うと、macOSまたはWindowsコンピュータに高品質マイクロフォンを接続できます。ラップトップやタブレットの内蔵マイクよりも高音質に音声を収録可能です。

マイク入力には、ダイナミックマイクやコンデンサーマイクなど、様々なタイプのマイクに対応しています。コンデンサーマイク使用時は、必要に応じてVocaster Oneからファンタム電源 (48V) を供給することも可能です。

Vocaster DM1は、音声収録に特化したダイナミックマイクですが、お持ちのマイクをVocaster Oneで使用することもできます。

マイク信号をUSB-C経由でコンピュータのオーディオレコーディングソフトウェアに送信し、ビットレート最大24bit、サンプルレート48kHzの録音が行えます (24bit/48 kHzは、ポッドキャストの標準的なフォーマットです)。

レコーディングソフトウェアをお持ちでない場合は、Vocasterに付属する無償ソフトウェアHindenburgの使用をお勧めします。

3.5mmジャックソケットを用いて、スマートフォン等をVocaster Oneに接続できます。もう一つのソケットは、ビデオカメラへの接続に使用します。

フォンコネクタはTRRSタイプです。TRRSは双方向の信号を扱えるため、通話音声を録音したり、通話相手に収録中の内容を聞かせることもできます。

Vocaster Oneには、ヘッドフォン用とスピーカー用の出力があります。フロントパネルには1/4インチTRSソケットを備え、リアパネルにはスピーカー接続用の1/4インチTRSソケットを備えています。Vocaster One Studioには、プロ品質のヘッドフォンVocaster HP60vが付属します。

トップパネルには、マイクゲインとモニタリングレベルを調整するノブを備えます。マイクコントロールノブの周囲には、マイク信号レベルとゲイン設定を表示する「ハロ」メーターを備えます。3個の点灯式ボタンもあり、オートゲイン機能やエンハンス機能、ミュートのオン/オフを切り替えます。またLED搭載のアイコンでは、ファンタム電源のオン/オフやUSBの接続状況を確認できます。

## 同梱物

Vocaster Oneには、以下が含まれます。

- Vocaster DM1ダイナミックマイク、マイククリップおよび3/8インチ-5/8インチスタンドアダプター付属。
- Vocaster HP60vヘッドフォン
- マイクケーブル、XLR(オス - メス)
- USB-C - USB-Aケーブル
- スタートアップガイド(梱包箱内部に記載)
- 安全に関する重要な注意事項

Vocaster Oneには、DAWアプリケーションHindenburgを含むサードパーティーソフトウェアが付属します。詳細については、[focusrite.com/Vocaster](https://support.focusrite.com/Vocaster)でご確認いただけます。

## システム要件

お使いのコンピュータのオペレーティングシステム(OS)がVocaster Oneに対応しているかを確認するには、[ヘルプセンターの互換性リスト](#)をご参照ください。

互換性リストは、OSの新バージョンのリリースに応じて随時更新され、[support.focusrite.com](https://support.focusrite.com)のヘルプセンターにてご確認ください。



## 使用を開始する

Vocaster Oneをコンピュータに初めて接続すると、USBメモリ接続時と同様に認識されます。

### イージースタートツール

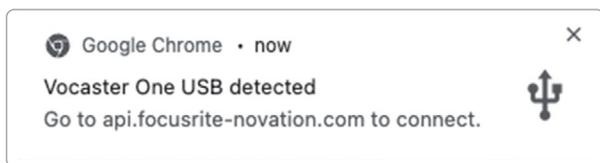
イージースタートは、Vocaster Oneを簡単に使い始めることができるオンラインツールです。イージースタートツールを使用するには、付属のUSBケーブルでVocaster Oneとコンピュータを接続し、リアパネルのUSBポート横にある電源ボタンを押します。

次ページ以降にて、イージースタートツールの使い方を解説します。実際に画面の表示を確認しながら進めることができ、初めてオーディオインターフェースを使用する方でも安心してセットアップを行うことができます。



## Macの場合:

Vocaster OneをMacに接続すると、以下のポップアップ通知が表示され、そして/または、Vocasterアイコンがデスクトップに現れます。

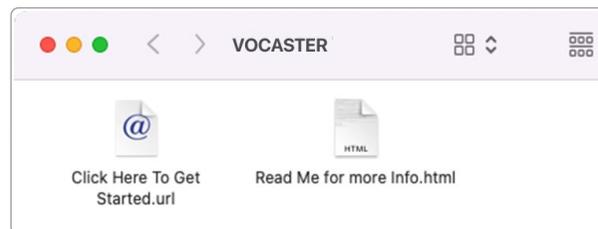


Google Chromeポップアップ通知

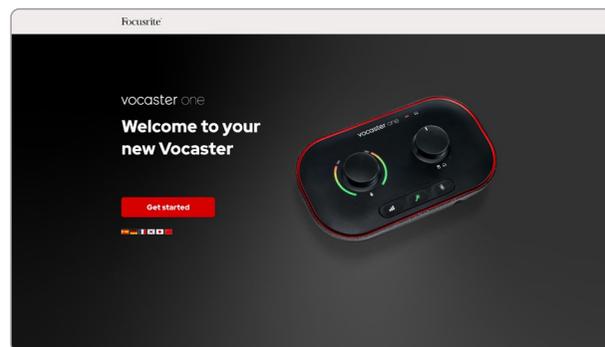


Vocasterイージースタートアイコン

アイコンもしくはポップアップをダブルクリックすると、以下のFinderウィンドウが表示されます。



**Click Here to Get Started.url**アイコンをダブルクリックすると、FocusriteウェブサイトのVocasterページが表示されます。このページではVocasterの製品登録を行えます。付属ソフトウェアパッケージにアクセスできるため、製品登録をお勧めします。

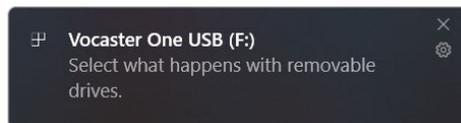


フォームを送信したら、用途別に表示される手順に従ってセットアップを行うか、直接アカウントにアクセスしVocaster Hubコントロールソフトウェアをダウンロードします。

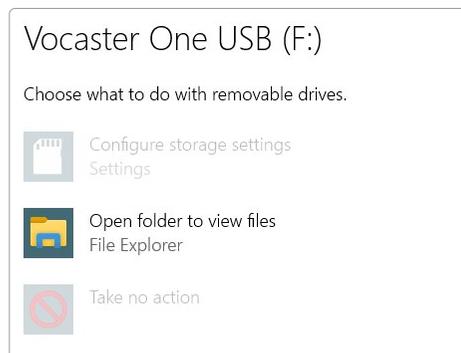
Vocaster OneをMacに接続すると、Vocaster Oneがデフォルトのオーディオデバイスとして設定されます。設定されない場合は、**システム環境設定 > サウンド**の「入力」と「出力」タブで**Vocaster One USB**を選択します。

## Windowsの場合:

Vocaster Oneをコンピュータに接続すると、以下の通知が表示されます。



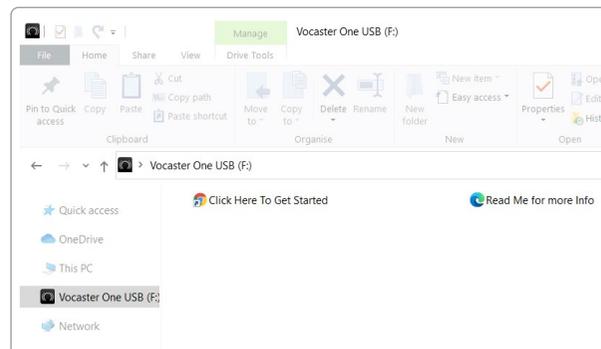
通知ウィンドウをクリックすると、以下のダイアログが表示されます。



以下のファイルをダブルクリックします。

## Open folder to view files (フォルダーを開いてファイルを表示)

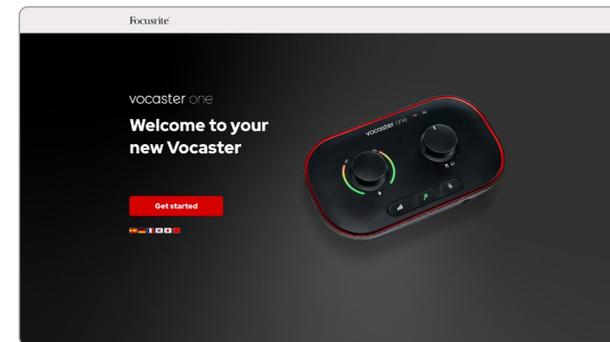
エクスプローラーウィンドウが開きます。



以下のファイルをダブルクリックします。

## Click Here to Get Started

Focusriteウェブサイトが開きますので、製品登録を行うことをお勧めします。



フォームを送信したら、用途別に表示される手順に従ってセットアップを行うか、直接アカウントにアクセスしVocaster Hubコントロールソフトウェアをダウンロードします。

Vocaster Oneをコンピュータに接続すると、Vocaster Oneがデフォルトのオーディオデバイスとして設定されます。設定されない場合は、**設定 > システム > サウンド**を開き、「入力」と「出力」でVocaster Oneを選択します。

## 使用を開始する

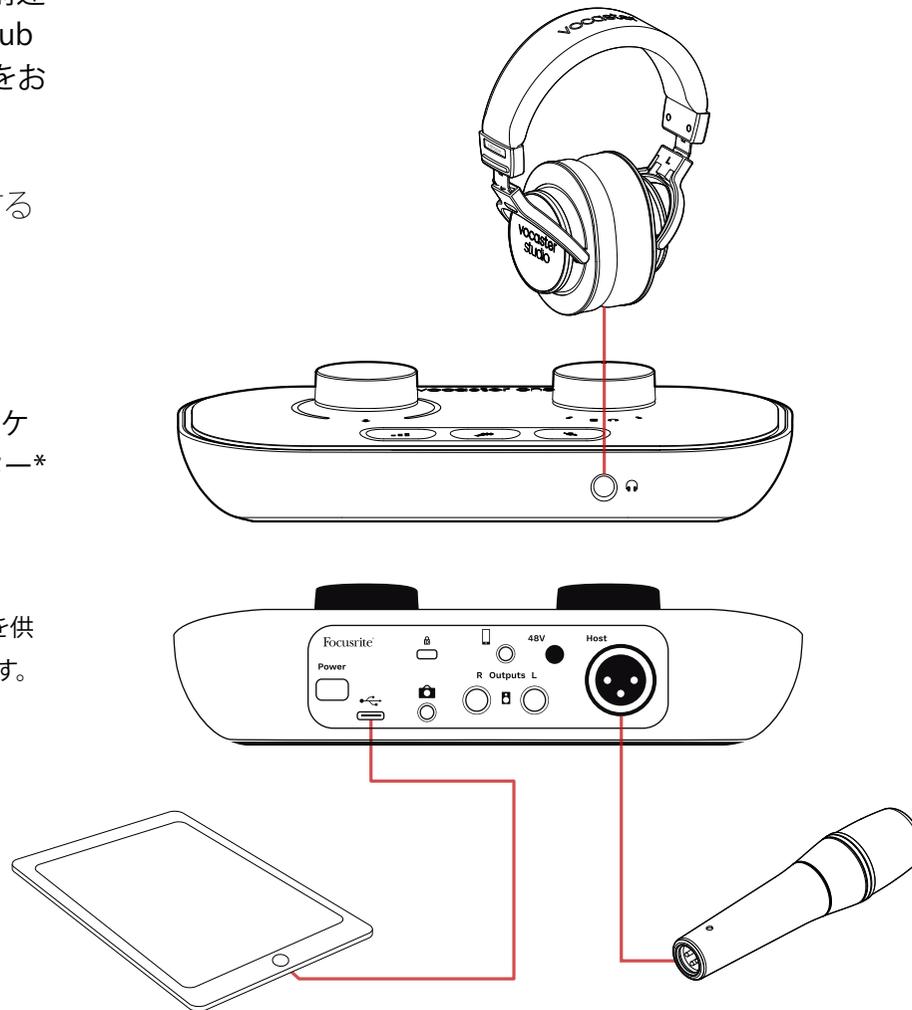
### iPadの場合:

注意: Vocaster OneをiPadに接続する前に、前述「使用を開始する」の手順に従い、Vocaster Hubで本体を最新の状態にセットアップすることをお勧めします。

Vocaster OneをiPadOSデバイスに接続するには、以下が必要です:

- USB-Cポートを搭載するiPad
- USB-C - USB-Cケーブル(または付属のケーブルとApple USB-A - USB-Cアダプター\*)

\* この接続方法の場合、Vocasterの動作に十分な電力を供給するために別途USBハブが必要になる場合があります。



### 接続方法

1. USB-C - USB-Cケーブル(またはアダプター)をiPadに接続します。
2. 接続したケーブルのもう一方の端を、Vocaster OneのUSBポートに接続します。
3. ヘッドフォンまたはモニタースピーカーをVocaster Oneに接続します。

iPadの音が、Vocaster Oneの出力にルーティングされます。Vocaster Oneの入力に接続したマイクやその他のソースを、音声録音をサポートするiOSアプリに入力できます。

### すべてのユーザー:

イーリースタートツールの使用に問題がある場合は、**More Info & FAQs**のファイルを開くことで、詳細情報やFAQをご覧ください。

注意: Vocaster HubをWindowsコンピュータにインストールすると、Vocaster Oneのドライバーが自動的にインストールされます。Vocaster HubおよびVocaster Windowsドライバーは、製品登録の有無に関わらずいつでもダウンロード可能です。詳細は「手動による製品登録」をご参照ください。

### 手動による製品登録

Vocaster Oneの製品登録は、[こちら](#)で後から行うことも可能です。その場合はシリアル番号 (UPN) を手動で入力する必要があります。シリアル番号は本体の裏面、または箱の側面にあるバーコードにも記載されています。

製品の性能を最大限に引き出すため、Vocaster Hubソフトウェアのダウンロードとインストールをお勧めします。Vocaster Hubは、[downloads.focusrite.com](#)からいつでもダウンロード可能です。

### DAWでのオーディオセットアップ

Vocaster OneはASIOまたはWDMをサポートするWindowsベースのDAW (録音ソフトウェア)、またはCore Audioで動作するMacベースのDAWで使用できます。イーリースタートツール (6ページ参照) の手順に従いセットアップを行うことで、Vocaster Oneをお好きなDAWで使い始めることができます。

Vocaster Oneは、USB経由ですべての入力ソースを個別に録音でき、後でミックスの調整が可能です。またVocaster HubソフトウェアのステレオミックスであるShow Mix入力も録音できます。

DAWアプリケーションをお持ちでない場合は、付属のソフトウェアHindenburgをお使いいただけます。Hindenburgは、Vocaster Oneの製品登録を行うことで使用可能になります。インストールでお困りの場合は、[こちらの](#)Getting Started ページでチュートリアルビデオをご覧ください。

Hindenburgの操作方法については、アプリケーションのヘルプファイルまたは[hindenburg.com/academy](#)をご参照ください。

注意: DAWがVocaster Oneをデフォルトの入出力デバイスとして自動的に認識しない場合は、DAWのオーディオ設定\*でドライバーをVocaster One/Focusrite USB ASIOに手動で設定してください。ASIOまたはCore Audioドライバーの設定方法については、お使いのDAWの説明書 (またはヘルプファイル) をご参照ください。

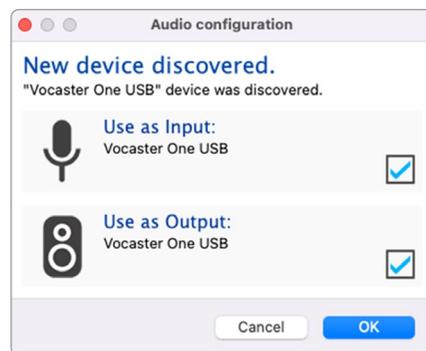
\*設定画面の名称は、ソフトウェアによって異なります。

## Hindenburgのオーディオセットアップ

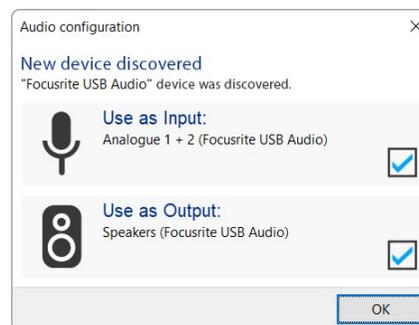
右図は、WindowsおよびMac版 Hindenburgのオーディオ初期設定での正しい設定例です。自動セットアップと手動によるセットアップが行えます。

### Preferences ページ (Mac版)

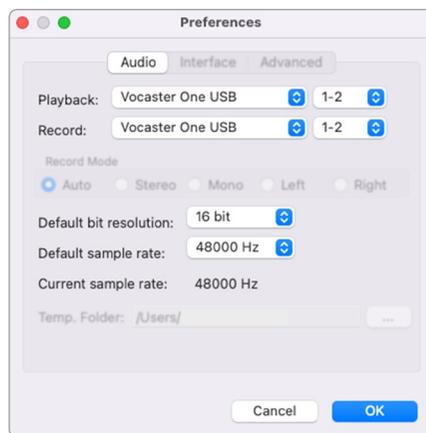
または  
**Tools > Options > Audioタブ**  
(Windows版)



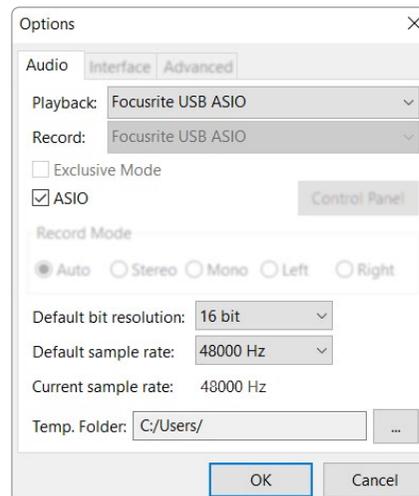
Macの自動セットアップ



Windowsの自動セットアップ



Macの手動セットアップ



Windowsの手動セットアップ

Vocaster Oneを各DAWで使用する  
ためのセットアップや操作方法が学  
べるチュートリアルビデオは、[Getting  
Started](#)ページでご覧いただけます。

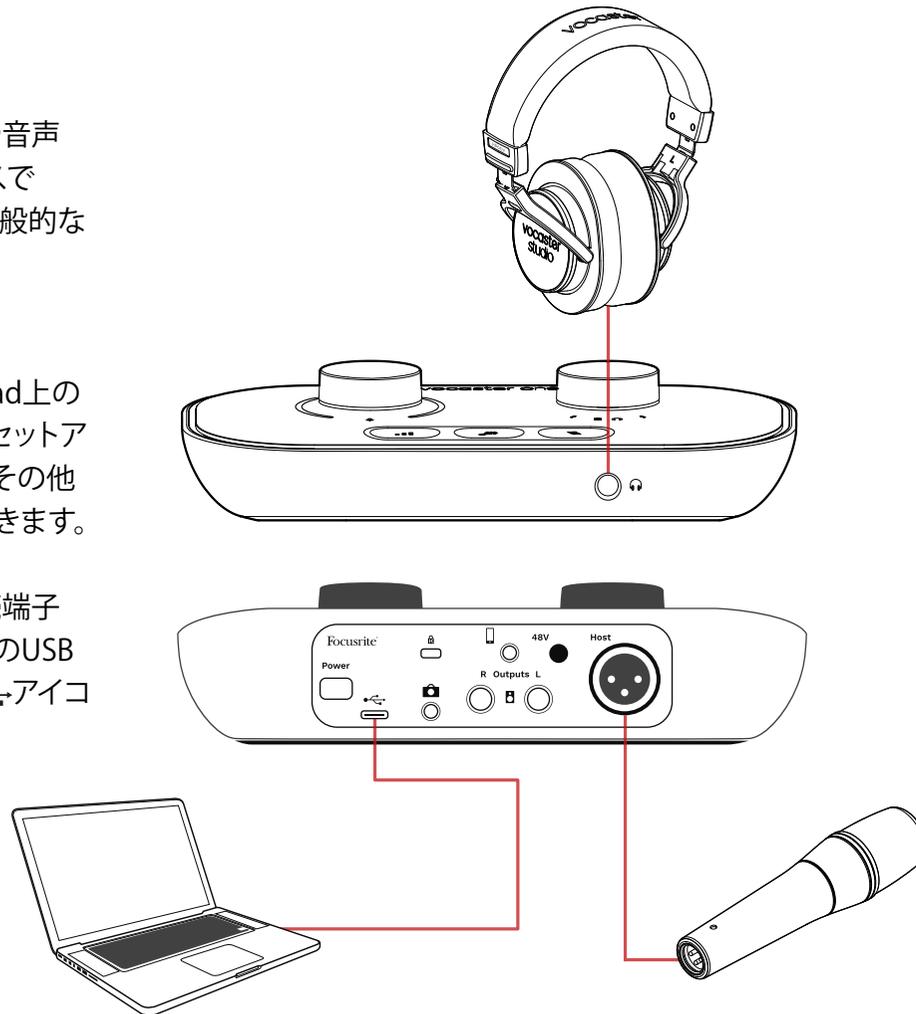
## 使用例

Vocaster Oneは、ポッドキャスト生配信や音声収録に最適なオーディオインターフェースです。Mac、Windows、iPadに対応します。一般的な接続例を以下に示します。

### マイクで録音する

1本のマイクを用いて、Mac/Windows/iPad上のソフトウェアで録音する場合の一般的なセットアップ例です。ヘッドフォンで自分の音声とその他の再生音などをモニターしながら録音できます。

ヘッドフォンソケット以外のすべての接続端子は、リアパネルに集約されています。付属のUSBケーブルでコンピュータをUSBポート(🔌アイコン)に接続し、電源ボタンで本体の電源をオンにします。

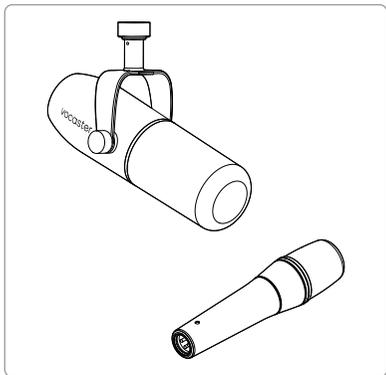


マイク入力端子はXLRソケットで、Vocaster One Studio付属のダイナミックマイクVocaster DM1など、XLRコネクタを備えたマイクを接続できます。Vocaster Oneインターフェースには、ダイナミックマイクのほか、コンデンサーマイクやリボンマイクも接続できます。ただし以下の理由から、音声収録にはダイナミックマイクの使用をお勧めします。

- 通常ダイナミックマイクは、その他のマイクより感度が低いため、音声収録の品質低下の原因となる室内ノイズ(キーボードのタイプ音やマイク調整ノイズなど)を抑えられる特徴があります。
- 最適な音声分離で音声を収録できるように、マイクに口を近づけて話してください。ダイナミックマイクを使う事で、より高感度のマイクで拾いがちな破裂音(唇によるポップノイズ)やブレスノイズを最小限に抑えることができます。

## マイクで録音する(続き)

Vocaster Studio付属のVocaster DM1マイクロフォンは、音声収録に特化したダイナミックマイクで、ポッドキャスト配信やナレーション、オーディオブックなど音声を使用するあらゆる場面に対応します。付属のXLRケーブルでVocasterのマイク入力に接続します。



2種類のダイナミックマイク

コンデンサーマイクを使用する場合は、必要に応じてXLR入力にファンタム電源(48V)を供給できます。ファンタム電源をオンにするには、リアパネルの48Vボタンを押します。ファンタム電源がオンになると、48V LEDが赤く点灯します。

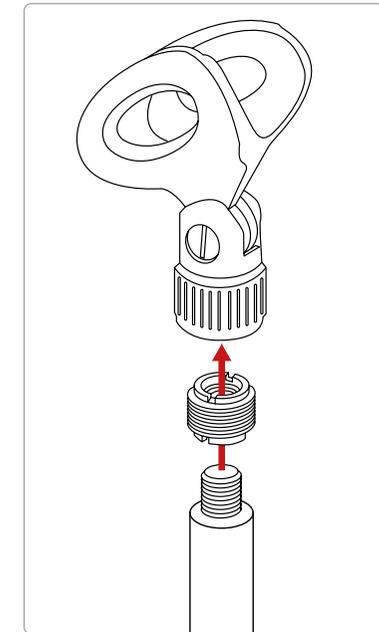
Vocaster DM1などのダイナミックマイクをVocaster One Studioで使用する場合は、ファンタム電源は不要です。ごくまれにファンタム電源によりマイクが破損することがあります。ダイナミックマイクを使用する際は、ファンタム電源をオフにすることをお勧めします。お使いのマイクがファンタム電源を必要とするか不明な場合は、マイクの取扱説明書をご確認ください。

## マイクの使い方ガイド

マイクの取り扱い方法やテクニックについての詳細は、本ユーザーガイドでは解説していませんが、初めてスタジオ品質のマイクで収録を行う方のために、いくつかの守るべきルールを以下に紹介します。

- まずはマイクレベルを適切に調整します。Vocasterのオートゲイン機能を使用することで簡単に設定できます。ゲインを高くすることはよくある事です。マイクレベルが低すぎる場合は、ゲインを上げるか、マイクに近づいてください。またマイクレベルが高すぎる場合は、ゲインを下げるか、マイクから少し離れます。

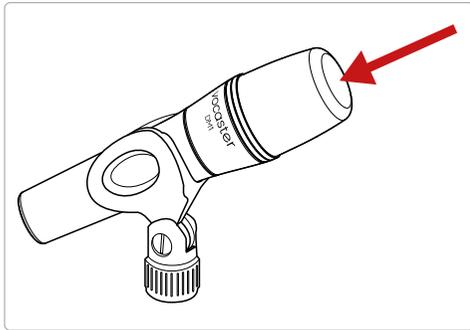
- マイクスタンドを使用します。Vocaster DM1は、ダイナミックマイクであるためハンドリングノイズは少ないですが、マイクスタンドを常に使用することを推奨しています。Vocaster DM1用マイククリップのネジ穴は、標準的な5/8インチ規格です。付属のアダプターは3/8インチにも対応可能です。ほとんどのマイクスタンドは、いずれかのネジ穴に対応します。



上から下に：  
マイククリップ、ネジ穴アダプタ、マイクスタンド

## マイクの使い方ガイド(続き)

- マイクの指向性について理解します。Vocaster DM1は、エンドアドレス型マイクです。マイクの側面ではなく、先端に向かって話します。マイクの向きを誤ると、本来のサウンドが収録できなくなります。



- マイクの角度を調整します。マイクを真っ直ぐ自分に向けて収録するのが望ましいですが、ブレスノイズが大きすぎたり、破裂音が気になる場合は、マイクの向きを僅かに中心軸から外すように調整することで、これらのノイズを抑えることができます(破裂音とは、「パ行」や「バ行」の発音で生じがちなポップノイズを指します)。マイクの向きを調整しながら、最適な角度を見つけます。

- マイクとの距離を調整します。マイクと近い距離(こぶし1つ分)で話すと、室内の残響音を抑えることはできますが、低域が強調され音声 少し不明瞭になることがあります。

これはナレーションには適していますが、マイクから少し離れる(15~30 cm程度)ことで、より自然な音声を収録できます。ただし収録する部屋によっては、マイクから離れるほど室内の残響が音声に影響されるため、注意が必要です。残響自体に問題がある訳ではありませんが、音声収録においてはあまり適しておりません。

- テストを行う際は、マイクに息を吹きかけないでください。その代わりに、マイクの先端を軽くこすってテストします。
- マイクは、時計やエアコン、暖房器具、椅子のきしむ音など、室内の様々な音を拾います。

収録時には気にならなくても、それらのノイズが録音データに残る可能性があります。Vocasterのエンハンス機能を有効にするか、録音ソフトウェアでハイパスフィルター(HPF)を適用することで、不要な低域成分を抑えることができます。

## オートゲインを使用する

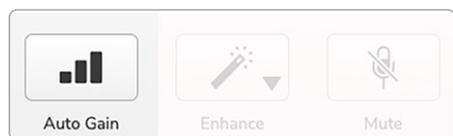
Vocaster Oneのオートゲイン機能を使うと、適切な録音レベルを設定できます。

オートゲインを有効にするには、 ボタンを押します。コンピュータでVocaster Hubを開いている場合は、**オートゲイン**アイコンをクリックします。

Auto Gainボタンが橙色に点滅します。



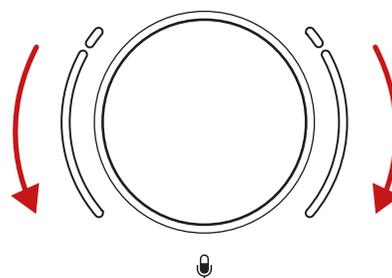
Vocaster One



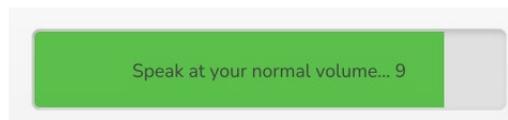
Vocaster Hub

次に、マイクに向かって本番収録と同じように10秒間話してください。

カーブ状のハロメーターがカウントダウンタイマーとして動作し、白色の点灯状態から下に向かって色がフェードアウトしていきます。Vocaster Hubにもプログレスバーが表示されます。



Vocaster本体のカウントダウン



Vocaster Hubのカウントダウン

10秒後に、オートゲインによりマイク入力レベルが適切に設定され、録音を開始できるようになります。

## オートゲインで入力レベルが変更できない場合

ハロメーターが橙色に点滅した場合は、入力レベルが大きすぎるか小さすぎるためオートゲインが適切なレベルを設定できず、最小または最大レベルに設定されたことを意味します。

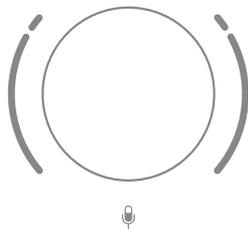
メーターが赤く点滅した場合は、オートゲインが使用に適したレベルを設定できなかったことを意味します。これは、マイクレベルが低すぎて引き起こされた可能性があります。

- 別のマイクまたはケーブルで試してください。
- コンデンサーマイクを使用する場合は、48Vファンタム電源をオンにしてください。
- マイクの電源スイッチを入れてください(オン/オフスイッチがある場合)。

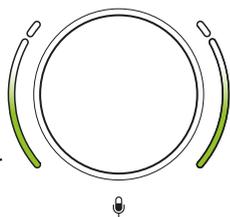
## 手動によるゲイン調整

🎙️アイコンが下にあるノブで、マイクのゲインおよび録音ソフトウェアへの出力レベルを設定します。

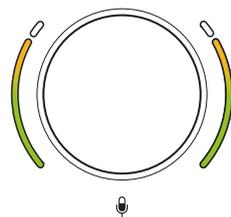
ゲインノブの周囲には、カーブ状のLED「ハロ」インジケータがあります。これらのメーターは、マイク信号のレベルに応じて異なる色で点灯します。



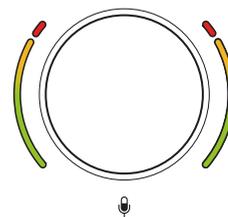
ノブを回してゲインを調整する際、左のハロメーターが白く光り、ゲイン設定の値を示します。



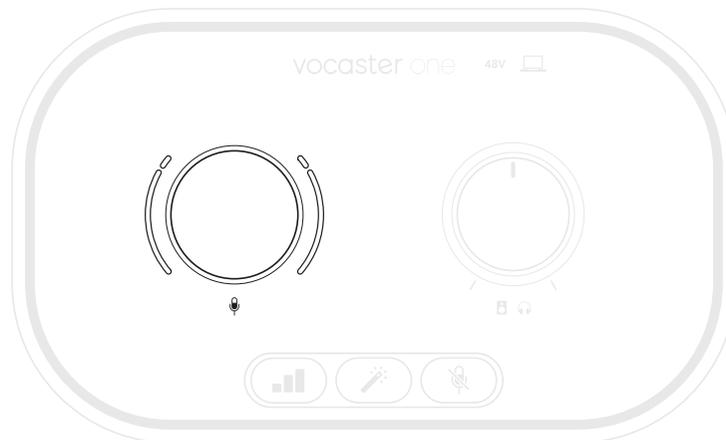
良好なレベル



若干高い

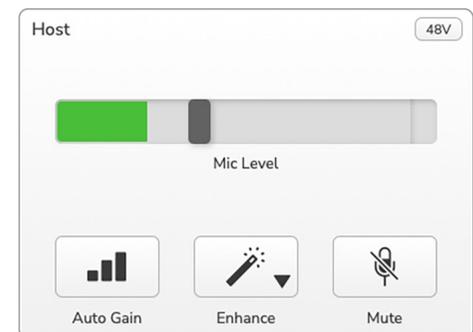


録音データが歪みます



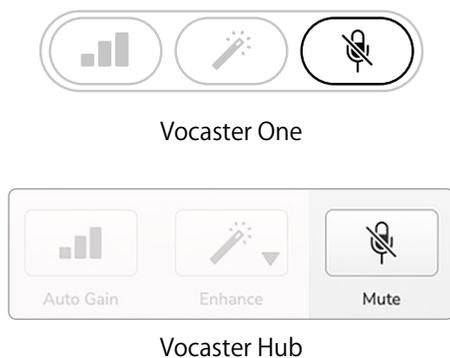
ゲインを設定するには、マイクに向かって本番収録と同じように話しながら、声のボリュームが最大の時にハロメーターが橙色になるようにノブを調整します。この時、橙色が消えるまでノブを少し下げます。ハロメーターが赤になった場合はレベルが高すぎて歪みの原因となるため、ゲインノブを必ず下げてください（下図参照）。

ゲインは、Vocaster Hub画面の**Mic Level**スライダーでも変更できます。スライダーを右にドラッグすると、ゲインが上がります。



## マイクのミュート

Vocaster Oneのマイクチャンネルは、ミュートボタンを備えます。



ミュートボタンを押してマイクをいつでも「オフ」にできます。マイクがミュート中は、ミュートボタンは赤く点灯し、ハロメーターは赤くゆっくり点滅します。

ボタンを再度押すと、ミュートが解除されます。Vocaster Hubでは、ミュートボタンを押すとミュートが有効になります（放送業界では、これを「カフスイッチ」と呼びます）。

## エンハンスを使用する

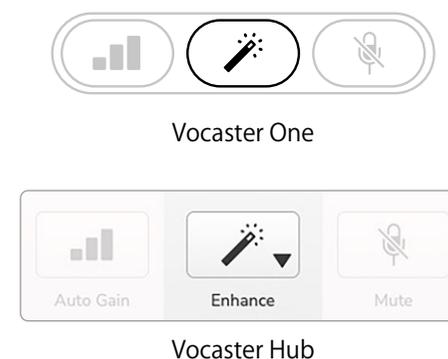
Vocaster Oneのエンハンス機能は、マイク信号を最適に処理するため高音質での収録が可能になります。

マイク信号のレベル調整にコンプレッサーが、音声をクリアにするためにイコライザーが、騒音やハンドリングノイズなどの不要な低域成分を取り除くためにハイパスフィルターが適用されます。

4つのプリセットを選択でき、好みのサウンドに上げることができます。Vocaster Hubでは、以下のプリセットをドロップダウンメニューから選択できます。

- Clean (クリーン)
- Warm (ウォーム)
- Bright (ブライツ)
- Radio (ラジオ)

エンハンス機能は、ボタンを押すと有効になります。Vocaster Hubでは、**エンハンスアイコン**をクリックします。



エンハンスを有効にすると、ボタンが緑色に点灯します。ボタンを再度押すと、無効になります。

## ヘッドフォンを使用する

Vocaster One Studioには、高品質なヘッドフォンHP60vが付属します。軽量で耐久性があり、長時間快適に使用することができます。ヘッドバンドは調整可能です。

HP60vヘッドフォンは、1/4インチ (6.35 mm) 3極 (TRS) ジャックプラグを備えます。フロントパネルにあるヘッドフォンアイコンのソケットにヘッドフォンを接続し、収録内容をモニターできます。

この出力端子には、他のヘッドフォンも接続できます。ジャックの形状が3.5 mm TRSの場合は、3.5 mm TRS - 1/4インチジャックアダプタを使用してください。

Vocaster Oneのヘッドフォン出力は、3.5 mm TRRSコネクタを備えるヘッドフォンでは正しく動作しない場合があります。

ヘッドフォンからは、マイク入力信号、通話やコンピュータの再生音 (ループバックチャンネル) など、収録中の音声と同じミックスがそのまま出力されます。

それぞれのボリュームは、Vocaster Hubのミキサーで調整できます。

ヘッドフォンボリュームは、ノブで調整できます。このノブによるボリューム変更は、録音データには反映されません。

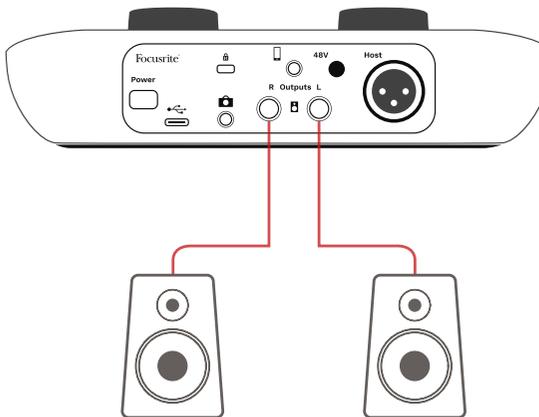
このノブは、ヘッドフォン出力とスピーカー出力の両方のレベルをコントロールします。ヘッドフォン使用時は、Vocaster Hubでスピーカーをミュートすることをお勧めします。



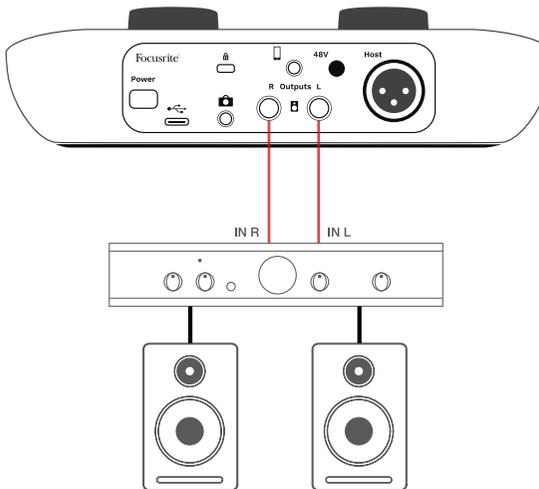
## スピーカーを使用する

🔊スピーカーへの接続は、1/4インチジャック Outputs RおよびLを使用します。これらの出力にはパワードモニターやアンプを接続できます。スピーカーのボリュームは、ヘッドフォンと同じ🔊ノブで変更できます。

出力端子はバランス1/4インチTRSジャックソケットで、ラインレベル信号を出力します。小型のパワードモニターの多くは、コンピュータに接続することを想定した3.5 mmアンバランスジャックプラグを備えます。またパワーアンプの場合は、一般的にフォノ (RCA) ソケットを備えます。



アクティブスピーカーに接続



アンプ経由でパッシブスピーカーに接続

スピーカーは、Vocaster Hubソフトウェアでもミュートできます。Vocaster Hubウインドウの右上にあるスピーカーアイコンをクリックすると、ミュートのオン (赤) /オフ (黒) が切り替わります。



注意:スピーカーとマイクを同時に使用すると、フィードバックループが生じる恐れがあります。番組収録中はスピーカーの電源をオフにし、ヘッドフォンのみでモニタリングすることをお勧めします。

## モバイル機器からの音声を録音する

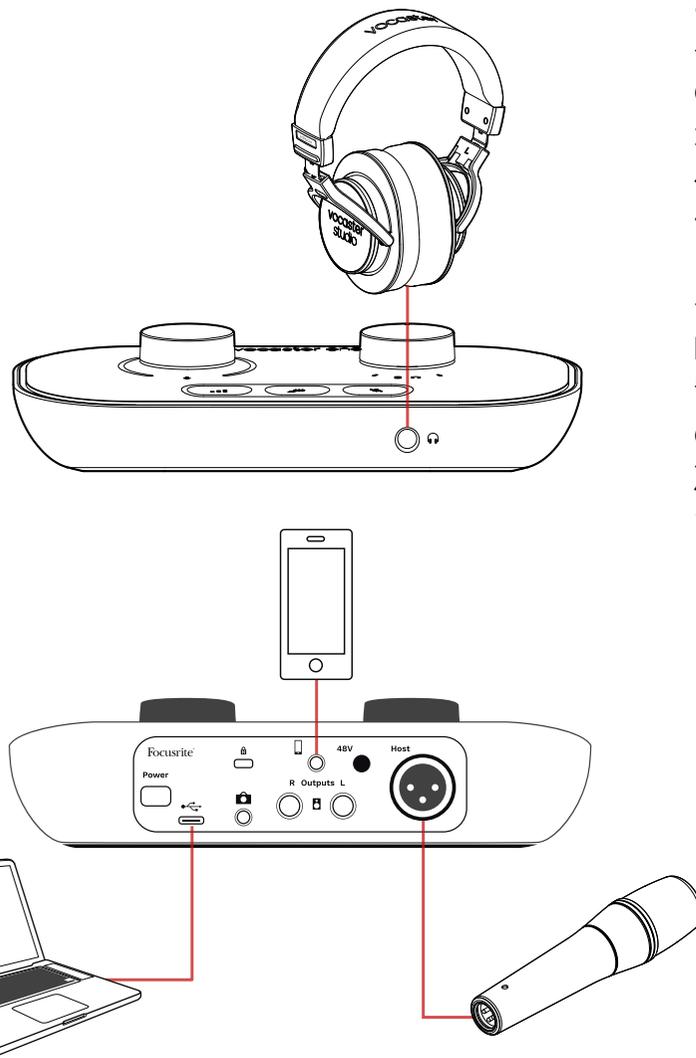
スマートフォン等をVocaster Oneに接続して通話を録音したり、その機器で再生した音楽を取り込むことができます。

接続は、リアパネルにあるフォンコネクタを使用します。端子は3.5 mm TRRSジャックソケットなので、3.5mm TRRS (一般タイプ) ケーブルでモバイル機器を接続します。

3.5 mm TRSケーブルも使用できますが、通話のやりとりができない場合があります。

3.5 mm端子がない機種の場合は、3.5 mm TRRSヘッドフォンアダプタを使用できます。

Vocaster Oneは、モバイル機器からの音声をモノラルで録音します。



このコネクタは、Vocaster Oneの出力をモバイル機器側に送信するため、通話相手には自身の声以外の番組全体のミックスを聞かせることができます。これは「ミックスマイナス」と呼ばれるミックスで、自身の声が遅れて聞こえたり、エコーになってしまうことを防げる利点があります。

モバイル機器へ送る信号レベルは、Vocaster Hubミキサーの入力チャンネルスライダーの位置によって変わります。マスター出力スライダーのレベルは反映されません。モバイル機器の音声入力モノラルマイクであるため、ステレオミックスをモノラル化した信号が送信されます。

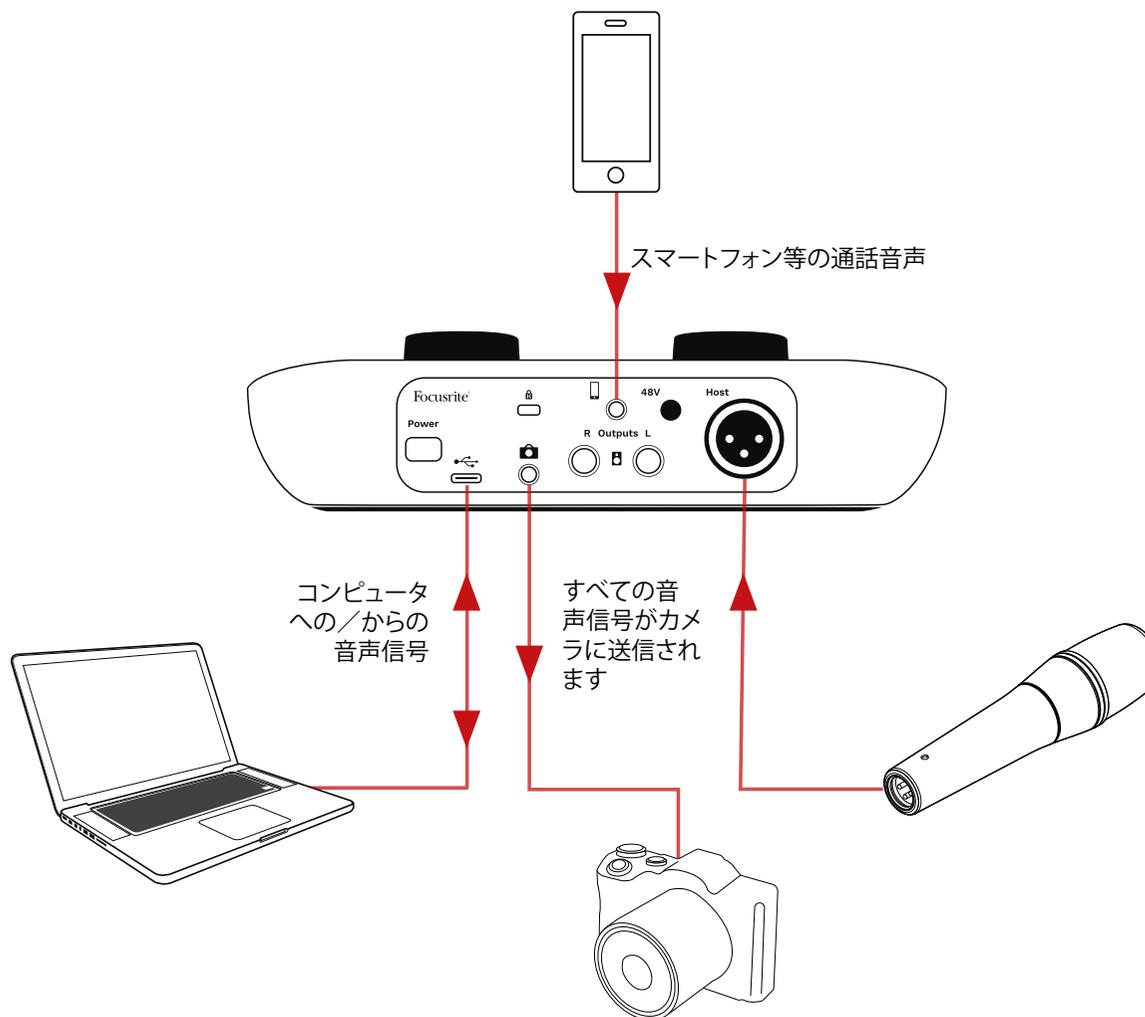
## ビデオカメラに録音する

映像を扱う場合、音声をビデオカメラに直接記録することもできます。Vocaster Oneのリアパネルには、このための出力コネクタ (3.5mm TRSジャックソケット ) があります。

3.5mmジャックケーブルで、マイク入力やその他の音声信号をカメラに送信することができます。

カメラの音声入力端子の形状が異なる場合は、カメラに適したケーブルを使用してください。カメラの音声ソースを、内蔵マイクではなく外部オーディオに設定してください。

Vocaster Oneのカメラ出力は、USB出力と同じミックスで、ヘッドフォンやスピーカーで聞くものと同じ信号が出力されます。カメラに送信するミックスやレベルは、Vocaster Hubミキサーで調整できます。



## Vocaster Hubソフトウェア

イーजीスタートツールのセットアップの際、Vocaster Hubソフトウェアをコンピュータにインストールできます。Vocaster Hubは、Vocaster Oneの様々な機能にアクセスできるソフトウェアです。マイク入力やその他の再生音などのミックスバランスを調整できる、重要な機能も備えています。

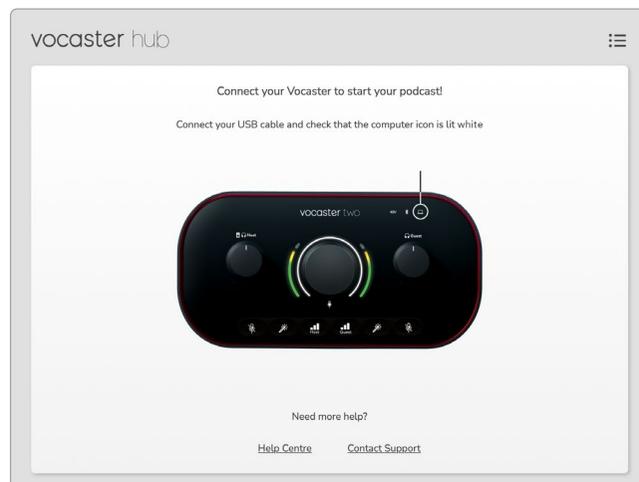
**重要:** Vocaster Hubのユーザーガイドは、Focusriteウェブサイトの[ダウンロードページ](#)から入手できます。このユーザーガイドには、Vocaster Hubの使用方法が詳しく記載されています。次のセクションでは、ソフトウェアの主な機能の概要のみを説明していきます。

Vocaster Hubを起動する: コンピュータにVocaster Hubをインストールすると、インストール先に以下のアプリアイコンが表示されます。



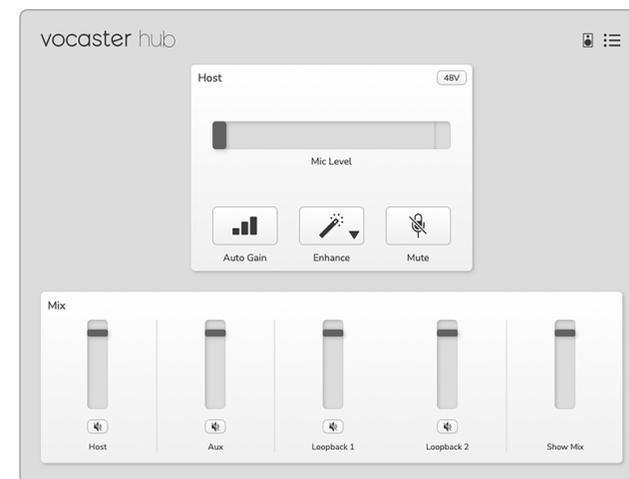
アイコンをダブルクリックすると、Vocaster Hubが起動します。

Vocaster One本体がコンピュータに接続されていないか、電源が入っていない場合は、以下のウェルカムページが表示されます。



画面下の[Help Centre](#)または[Contact Support](#)リンクから、ヘルプセンターとサポートページにアクセスできます。チュートリアルビデオを含むVocaster Oneの詳しい使い方についてもご覧いただけます。Vocaster Oneの電源をオフにすると、いつでもこの画面が表示されます。

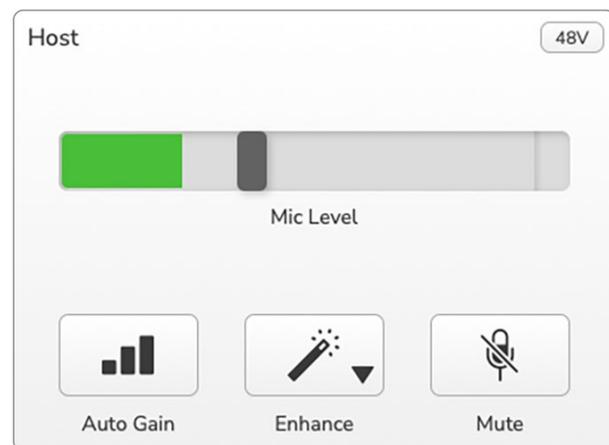
Vocaster Oneをコンピュータに接続して電源を入れると、アイコンが白く点灯しコンピュータとの通信を確認できます。しばらくするとVocaster Hubのコントロールページが表示されます。



アイコンが赤く点灯する場合は、コンピュータと通信できていない状態です。ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。

## マイクの調整

Host入力パネルにて、Vocaster Oneのマイクチャンネルを調整します。

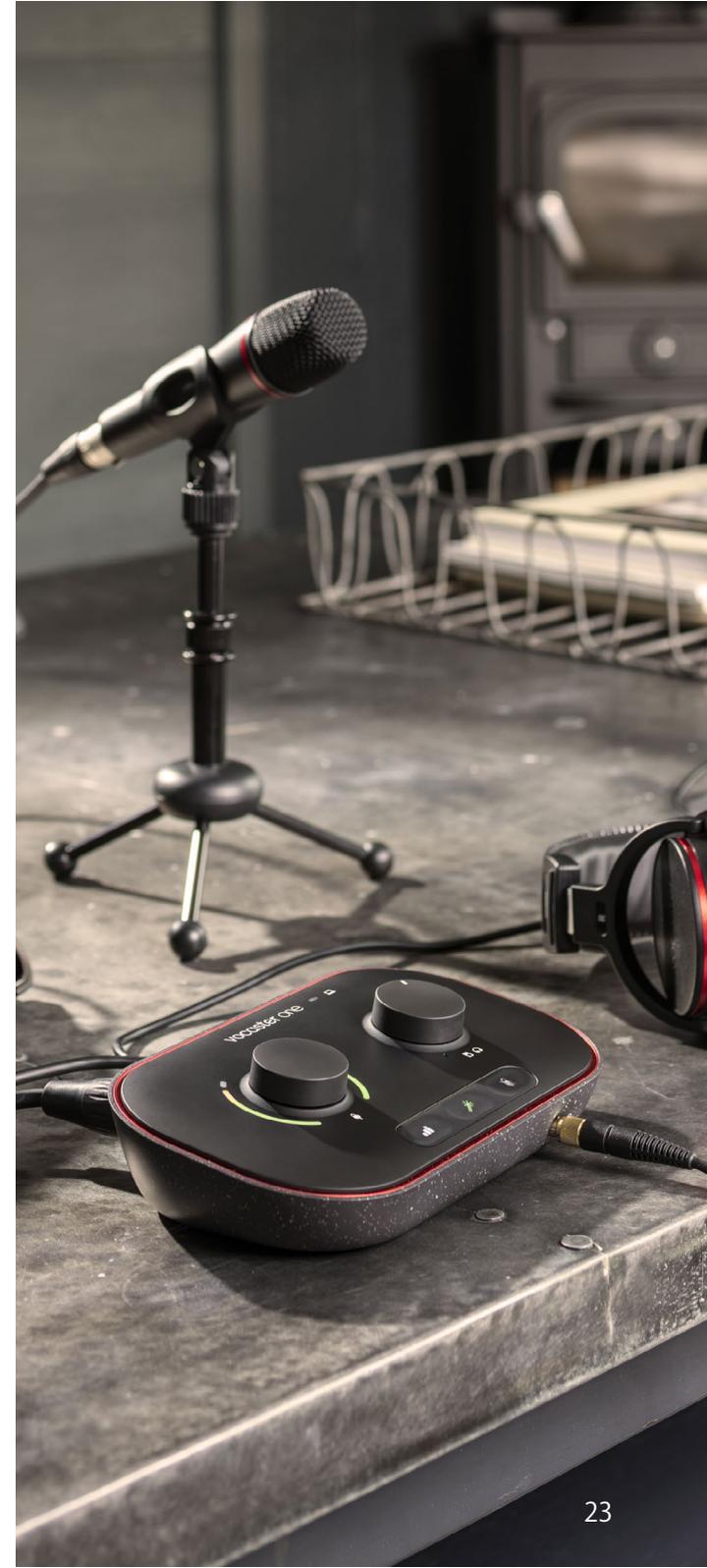


**Mic Level**ディスプレイでは、レベルメーターの表示とレベルの調整を行います。灰色のバーをドラッグしてゲインを調整します。この操作は、本体のロータリーゲインノブでも同様に行うことができます。またカラーバーはマイクの信号レベルを示し、これも本体の信号レベルのハロメーターと連動しています。

バーの色は通常緑色で、ピークレベルに達するとオレンジ色になります。赤色になった場合は、ゲインの設定が大きすぎることを意味します。

メーター/レベル表示の下にある以下の3つのボタンは、本体トップパネルと同じボタンです。

- **Auto Gain** – クリックすると、オートゲイン機能が有効になります。本番収録と同じようにマイクに向かって10秒間話すと、ゲインが設定されます。
- **Enhance** – クリックすると、エンハンス機能が有効になり、ボタンが緑色に点灯します。再度クリックするとエンハンス機能が無効になります。
- **Mute** – クリックすると、マイクがミュートになります。ミュート有効時は、ボタンとレベル表示が赤色に点灯します。ボタンを再度クリックすると、ミュートが解除されます。

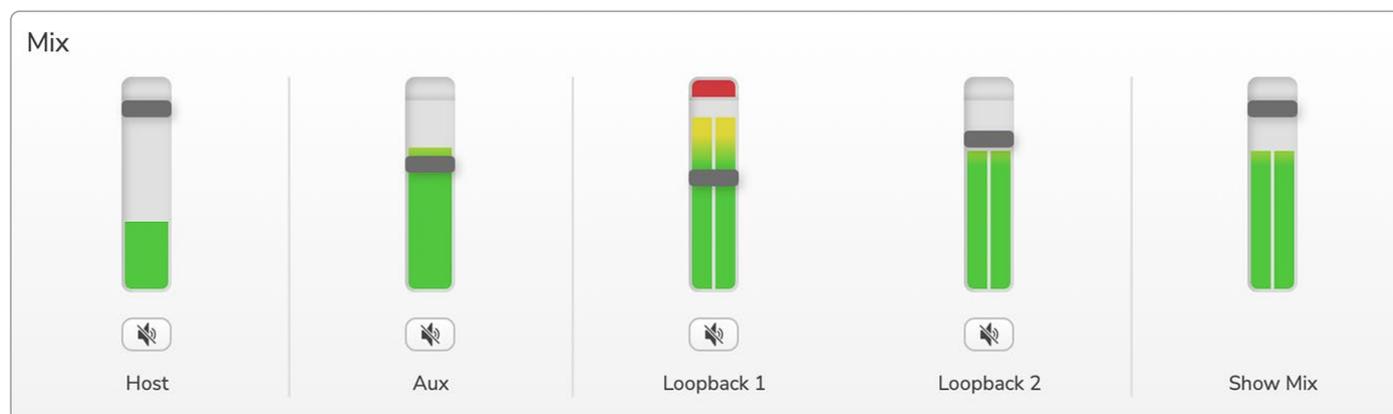


## ミックスの調整

**Mix**セクションでは、Show Mixを構成するオーディオ入力やコンピュータ出力のバランスを調整できます。

Mic Levelコントロールと同様、スライダーでメーター表示とレベル調整が可能です。スライダーの操作は、ヘッドホン/スピーカー用のミックスやShow Mixの録音に反映されますが、お使いの録音ソフトウェアの各入力チャンネルレベルには反映されません。ミキサーでは、以下のチャンネルが表示されます(左から右)。

- **Host** (モノ) – Vocaster Oneのマイク入力。
- **Aux** (モノ) – リアパネルの  コネクタにモバイル機器を接続する場合に使用します。接続機器から送信される音声レベルを調整します。
- **Loopback 1** および **Loopback 2** (ステレオ) – コンピュータから再生される2つのオーディオソースをコントロールします。インターネットや録音済みファイル、その他のソースを使用できます。下の画面ではLoopback 1がクリップを示しており、この場合は赤いクリップインジケータが表示されなくなるまでソースレベルを下げる必要があります。
- **Show Mix** (ステレオ) – ミキサー全体の出力レベルをコントロールします。



Loopback 1チャンネルのメーター上部の赤い部分は、クリップインジケータです。これは、**ソース**のレベルが大きすぎることを意味し、録音に歪みが生じる恐れがあります。ただしLoopbackでは、頻繁にクリップインジケータが表示されることがあります。

クリップが表示された場合は、**ミキサー内のスライダーではなく、ソース側のトラックレベル**を下げてください。ただしShow Mixがクリップした場合は、ミキサー内のトラックレベルを下げてください。



### コンピュータからのサウンドを録音する

Vocasterのループバック機能を使うと、コンピュータ内のオーディオソース（ウェブブラウザの音声出力など）を録音できます。Vocaster Hubミキサーには、2つのステレオLoopbackスライダーがあります。これらはVocaster Oneの「仮想」入力を使用したチャンネルです。この仮想入力は本体に入力コネクタを持ちませんが、他の入力信号と同様に扱うことができ、DAWで録音できます。

別々のアプリケーションから各ループバック入力へ信号を送信できます。ループバック入力に割り当てるアプリケーションは、各アプリケーションの出力設定で選択します。Macユーザーで、両方のループバック入力を使用する場合は、[こちらのサポート記事](#)をご参照ください。

- Loopback 1 – このチャンネルは、出力のルーティングが再生チャンネル1-2に設定されている、または出力のルーティング設定ができないソフトウェアからの信号が入力されます。Loopback 1では、以下のソフトウェアなどが使用できます。
  - インターネットブラウザ
  - SpotifyやApple Musicなどの音楽再生ソフトウェア
  - テレビ会議用ソフトウェア
- Loopback 2 – このチャンネルは、出力のルーティングが再生チャンネル3-4に設定されているソフトウェアからの信号が入力されます。設定については、各ソフトウェアのオーディオ設定で行いますが、出力のルーティング設定ができないソフトウェアも存在します。詳細は、お使いのユーザーガイドをご確認ください。Loopback 2に信号を送信できるソフトウェアには、以下のものなどがあります。
  - お使いのその他の録音/再生ソフトウェア
  - VOIPおよびテレビ会議用ソフトウェア

### ループバックの使用例

異なるソフトウェアの音声を個別に収録し、後でミックスを調整したい場合は、ループバック機能が便利です。たとえば、ゲストとのビデオ通話や、オーディオ再生ソフトウェアで再生したジングルの音などを使用して番組を収録する場合。

テレビ会議用ソフトウェア (Zoomなど) は、デフォルトで再生チャンネル1-2に音声を出力します。この信号は、Vocaster HubミキサーのLoopback 1チャンネルに入力されます。次に音楽再生ソフトウェアの出力を再生チャンネル3-4に設定すると、その信号はVocaster HubミキサーのLoopback 2チャンネルに入力されます。

これで、お使いの録音ソフトウェアで各トラックを個別に録音できます。

- Loopback 1の信号は、DAWチャンネル7と8に入力されます。
- Loopback 2の信号は、DAWチャンネル9と10に入力されます。

詳しい操作方法は、Vocaster Hubユーザーガイドを  
ご参照ください。

### 各チャンネルをソフトウェアで録音する

お使いの録音ソフトウェアによって異なりますが、最大10チャンネルの信号を個別に録音できます。

各チャンネルは、以下の順番にDAWに入力されます。

DAW入力番号	Vocaster入力	内容
1	Video Call L Video Call R	ループバック以外のすべての入力チャンネルのミックス。いわゆるミックスマイナス信号です。ビデオ通話のゲストは、自分の声を除いたすべての番組内容を聞くことができます。
2		
3	Show Mix L Show Mix R	番組全体を録音するための、すべての入力チャンネルのステレオミックス
4		
5	Host Microphone	ホスト側マイク入力
6	Aux	Vocasterのフォン入力に接続されたモバイル機器からのモノラル信号
7	Loopback 1 L Loopback 1 R	ソフトウェアの再生チャンネル1-2からの信号
8		
9	Loopback 2 L Loopback 2 R	ソフトウェアの再生チャンネル3-4からの信号
10		

## 各部の名称と特徴

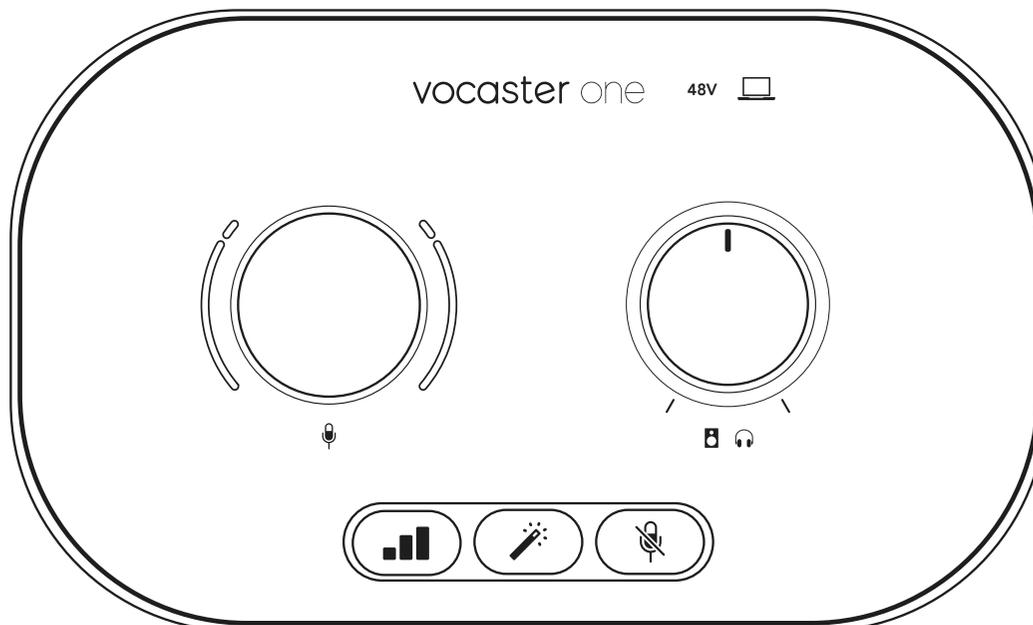
### トップパネル



左のコントロールノブで、マイク入力のゲインを調整します。

ゲインノブの左右には、様々な機能を持つカーブ状の「ハロ」メーターを備えます。

- これらのメーターはマイクレベルを示します。緑色は正常レベル、橙色はクリップに近いレベル、そして赤色はべきデジタルクリップを示しており、この状態は必ず回避してください。
- オートゲイン設定が完了すると、処理が正しく行われたときはメーターが緑色、失敗したときは赤色に光ります。
- マイクゲインを調整しているときは左のハロメーターは白色に点灯し、現在のゲイン値を表示します。
- またマイクがミュートになると、各メーターが赤色に点滅します。



### ボタン



このボタンを押すと、**オートゲイン**機能が有効になり、本番収録と同じようにマイクに向かって10秒間話すと、ゲインが調整されます。実行中はメーターが橙色に点滅します。



**エンハンスボタン**。ボタンを押すことで、エンハンス機能のオン/オフが切り替わります。エンハンスが有効のときは、LEDが緑に点灯します。



**マイクミュートボタン**。ボタンを押すことで、マイク入力のミュートのオン/オフが切り替わります。ミュート中は、LEDが赤く点灯します。

### インジケータ



接続されているコンピュータと通信中のときは、LEDが白く点灯します。通信に失敗すると赤く点灯します。

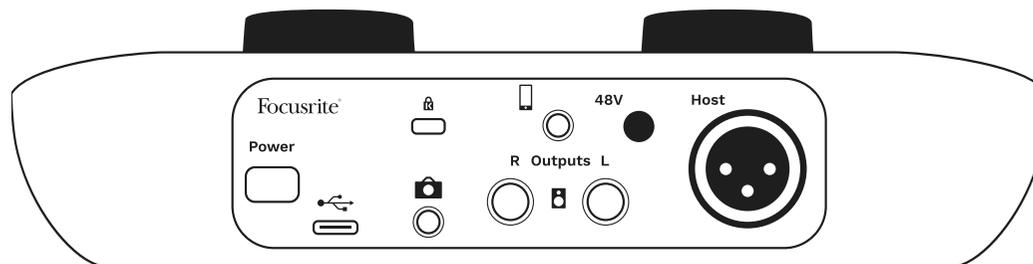
### 48V

48Vファンタム電源がオンのとき、LEDが赤く点灯します。



**モニター出力レベルノブ** - フロントパネルのヘッドフォン出力とリアパネルのスピーカー出力のレベルを調整します。

## リアパネル



### Power

ボタンを押して、Vocaster Oneのオン/オフを切り替えます。



USB 3.0ポート – タイプCコネクタ。付属のUSBケーブルでお使いのノートパソコンまたはコンピュータに接続します。



ケンジントンセキュリティスロット – ケンジントンロックでVocaster Oneの安全を守ります。



Vocaster Oneとビデオカメラの外部音声入力端子を接続するための3.5 mm TRSジャックソケット。



対応するモバイル機器を有線接続するための3.5 mm TRRSジャックソケット。



**Outputs L** および **R** – モニタースピーカー接続用1/4インチバランスTRSジャックソケット。TRS (バランス接続) もしくはTS (アンバランス接続) のいずれにも対応します。

### 48V

マイク入力のファンタム電源スイッチ – XLRソケットで48Vのファンタム電源を有効にできます。

### Host

マイク接続用XLRソケット

### フロントパネル:



ヘッドフォン出力ソケット。ここにヘッドフォンを接続します。ヘッドフォンの接続ジャックが3.5mmのミニジャックの場合は、3.5mm - 1/4インチ変換アダプターを使用してください。

## 仕様

## 性能仕様

以下の仕様は、お使いの機器がVocaster Oneで使用できるか確認するための参考資料になります。ただしVocaster Oneは、ほとんどの機器で使用できるため、これらの情報に関して知識がなくても問題ございません。

## サンプリングレート

48 kHz

## USB

バージョン	USB 3.0
最大電流	0.8A
最大電圧	5V
最大電力	4W

## マイク入力

インピーダンス	3K $\Omega$
最大入力レベル	+12.5dBu @ 最小ゲイン
ゲインレンジ	70dB
THD+N (@ -1dBFS)	$\leq$ -94dB
周波数特性 (20Hz @ 最小ゲイン)	20Hz - 20kHz +0, -0.5 dB

## フォン入力

インピーダンス	18K $\Omega$
THD+N (@ -1dBFS)	$\leq$ -94dB
最大入力レベル	+1dBu
周波数特性	20Hz - 20kHz +0, -0.5

## フォン出力

インピーダンス	220 $\Omega$
最大出力レベル	-26dBu
THD+N	-73dB
周波数特性	20Hz - 20kHz +0dB, -0.5dB

## ライン出力

インピーダンス	440 $\Omega$
最大出力レベル	+14dBu
THD+N	$\leq$ -96dB
周波数特性	20Hz - 2kHz $\pm$ 0.15dB

## ヘッドフォン出力

インピーダンス	5 $\Omega$
最大出力レベル@ 0dBFS	+6.5dBu
最大電力 (mW)	8.5mW(270 $\Omega$ ) 28mW(33 $\Omega$ )
THD+N	-96dB (無負荷時)
周波数特性	20Hz - 20kHz, $\pm$ 0.5dB

## カメラ出力

インピーダンス	220 $\Omega$
最大出力レベル	-24.5dBu
THD+N (最大出力 -1dBFS, 22Hz - 22kHz)	-73dB
周波数特性	20Hz - 20kHz $\pm$ 0.2dB

## 物理的特性と電気的特性

## その他のオーディオ入出力

カメラ出力	3.5 mm TRSジャック (リアパネル)
フォン入力&出力	3.5 mm TRRSジャック (リアパネル)
ループバック入力	2 x ステレオ (Vocaster Hub経由)

## マイク入力

コネクタ	バランス、XLRメス (リアパネル)
ファンタム電源	48Vスイッチ (リアパネル)

## 重量および寸法

重量	348g
高さ	50mm
幅	195mm
奥行	113mm

## アナログ出力

メイン出力	バランス、2 x 1/4インチTRSジャック
ステレオヘッドフォン出力	1/4インチTRSジャック (フロントパネル)
出力レベルコントロール (メインおよびヘッドフォン)	トップパネル上



## Vocaster DM1マイクロフォン仕様

カプセル		
タイプ	ダイナミック	
極性パターン	カーディオイド	
性能		
感度 (0dB = 1V/Pa@1kHz)	-53dB ±3dB	
周波数特性	50Hz - 14kHz	
インピーダンス (@1kHz)	19Ω ±20%	
電気的特性		
取付	標準5/8インチ、3/8インチアダプタ付属	
正味重量	405g	
本体寸法	直径	41mm
	長さ	164mm

## Vocaster HP60vヘッドフォン仕様

性能	
インピーダンス	32Ω
感度	98dB ±3dB
周波数特性	20Hz - 20kHz
最大定格電力	1.2W
物理的特性と電気的特性	
タイプ	密閉型
ドライバー直径	50mm
ケーブル長	約3m
コネクタ	3.5mmステレオジャック、6.35mmネジ式アダプタ
重量	288g (ケーブルを含む)



### トラブルシューティング

トラブルシューティングに関するご質問は、以下のFocusriteヘルプセンターへアクセスしてください。

[support.focusrite.com](https://support.focusrite.com)

### 著作権および法定通知

FocusriteはFocusrite Audio Engineering Limitedの登録商標です。VocasterはFocusrite Audio Engineering Limitedの商標です。

その他すべての商標および商品名はそれらの個別の所有者の財産です。

2022 © Focusrite Audio Engineering Limited.  
無断転用禁止。

### クレジット

Focusriteは、本製品のために尽力してくれた以下のVocasterチームのメンバーに感謝いたします。

Adrien Fauconnet, Alex Middleton-Dalby,  
Alex Wood, Andre Cerqueira,  
Anthony Nicholls, Ben Bates, Ben Cook,  
Ben Dandy, Bran Searle, Ben Cochrane,  
Chris Graves, Dan Weston, Daniel Clarke,  
Daniel Hughley, David Marston, Derek Orr,  
Ed Fry, Eddie Judd, Emma Davies,  
Harry Morley, Ian Hadaway, Jack Cole,  
Jake Wignall, James Johnson, James  
Otter, James Surgenor, Jason Cheung, Jed  
Fulwell, Jessica Chambers, Joe Deller,  
Kai Van Dongen, Linus Reitmayr,  
Luke Matthews, Martin Dewhirst,  
Mary Browning, Michail Fragkiadakis,  
Mike Richardson, Mukesh Lavingia,  
Orla Haigh, Pete Carss, Rob Stevenson,  
Ryan Gray, Seraphin Gnehm, Steve  
Bush, Stefan Archer, Stratis Sofianos,  
Tom Cartwright, Vidur Dahiya,  
Vincenzo Di Cosmo, Wade Dawson